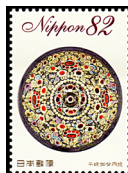


2016 年 Calendar

The Stamps of The Shosoin Treasures



The Shosoin Repository

The Shosoin Repository is located within the grounds of the temple Todaiji in the city of Nara, and was built in the Nara period, eighth century AD. The term Shosoin refers to this particular repository today, but historically referred to the area where a group of storehouses was established. During the Nara and Heian periods, government offices and major Buddhism temples generally had their own storehouse – shoso for storing important materials. Over periods, the majority of them had disappeared, and only the one at the Todaiji has survived to date.

Around the middle of the eighth century, the Emperor Shōmu who had governed the country at that time was deceased. On the twenty-first days of sixth month of Tenpyō Shōhō 8 (756), after 49 days since his demise, his wife, the Empress Kōmyō offered the Great Buddha of Todaiji over six hundreds of those objects that he had been fond of during his lifetime along with sixty kinds of medicines. The empress repeated her offerings to the Buddha for five times. These offerings resulted in being kept in the Shoso of the temple, and had been preserved there over 1200 years. In addition to them, the repository had housed Buddhism implements used for important ceremonies at the temple such as the Consecration Ceremony of the Great Buddha in Tenpyō Shōhō 4 (752). In Tenryaku 4 (950), other valuable objects that had been kept in a storehouse of Kensakuin, a sub-temple of the Todaiji, were also relocated to the Shoso. All of these artifacts described above constitute what is presently known as the Shosoin Treasures.

The Shosoin Repository had been maintained by the Todaiji temple under supervision of the Imperial court over a thousand years. However, at the beginning of the Meiji period, the jurisdiction over the repository and treasures was transferred to the government, considering their significance as a heritage.

Since 1884, the Imperial Household Ministry (currently Imperial Household Agency) has been responsible for their care and long-term preservation.

About the Shosoin Treasures

The majority of the Shosoin Treasures are considered to date from the eighth century, and have such unique historic attribution and provenance (see History of the Shosoin and About the Shosoin Repository for details). These artifacts, ranging from the works of arts and crafts to the important documents, manuscripts and sutras, were produced domestically or imported from the continent across the sea.

The number of the treasures preserved until today exceeds 9000 items. The treasures encompass a range of artifacts that reveal the social and cultural life of the Nara period: manuscript, stationery, decorative arts, musical instruments, game kit, Buddhist implements, ritual implements, arms and armour, garment and accessories, artisan tools, incense and medicine, etc. Various types of materials and techniques are used there, and one can see examples of metalwork, woodwork, lacquer-work, embellishment with tortoiseshell and horns, ceramic, glass and textile, presenting the entire scope of artisan works. The complicated techniques applied, such as heidatsu (metal-sheet inlay used in lacquer-work), mokuga (marquetry), raden (mother-of-pearl inlay), bachiru (engraved design on a colored ivory), sancai (three-color glaze) and shippō (cloisonné enamel) witness the accomplished skills of craftsmen at that time. To list a few of the well-known pieces:

<https://en.wikipedia.org/wiki/Sh%C5%8Ds%C5%8Din>

<http://shosoin.kunaicho.go.jp/en-US/Home/About/History>

螺鈿紫檀琵琶

(らでんしたんのびわ)

寸法：全長 99.6

最大幅 41.5

槽より鹿類及び手
は紫檀腹板はヤチ
ダモまたはシオジ
槽に螺鈿・琥珀・玳瑁・金箔・黄楊木の
装飾 絃門より海老
尾は黄楊木

国家珍宝帳記載の楽器。古代ペルシアに起源をもつ四絃琵琶は、中国・日本でもひろく愛された楽器である。背面に螺鈿・玳瑁の装飾がある。



2014 年正倉院
宝物シリーズ



1988 年 なら・
シルクロード博

2016 年



1 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

螺鈿紫檀琵琶

(らでんしたんのびわ)

寸法：全長 99.6

最大幅 41.5

槽より鹿類及び転手
は紫檀・腹板はヤチ
ダモまたはシオジ
槽に螺鈿・琥珀・玳瑁
・金箔・黄楊木老
装飾 絃門より海老
尾は黄楊木

国家珍宝帳記載の楽器。古代ペ
ルシアに起源をもつ四絃琵琶は、
中国・日本でもひろく愛された
楽器である。背面に螺鈿・玳瑁
の装飾がある。



2014 年正倉院
宝物シリーズ



2016 年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

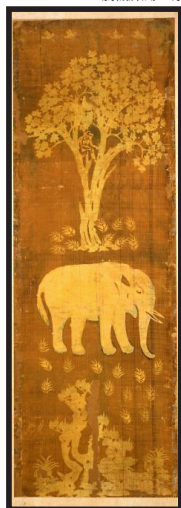
臈纈屏風 羊木屏風

(ろうけちのびょうぶ ひつじき)

ペアとなる
 臈纈屏風 象木屏風

寸法：長 163.1 幅 55.9

国家珍宝帳記載品。型押し蠟防染・
 顔料彩色による屏風の画面。これら
 は1畳の屏風中の2扇で、地裂に調
 銘がある。



2016 年

2 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

木画紫檀碁局

(もくがしたんのききょく)

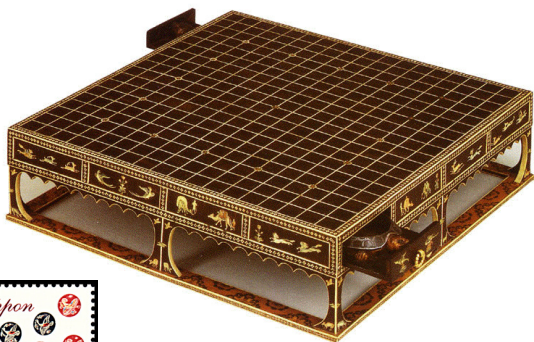
寸法：縦 49.0

横 48.8 高 12.7

国家珍宝帳記載の
献納宝物。木画の
技法で装飾した碁
盤。ひきだしを内
蔵する天板部分を
床脚で支える。碁
盤（木画紫檀碁局、
もくがしたんのき
きょく、亀（スッ
ポン）、象をかた
どった二つの引出
しは、アゲ
ハマ入れと
考えられて
います。



2014 年
正倉院宝物シリーズ



碁石（左 紺牙撥鏤碁子（こんげばちるのきし）、右 紅牙撥鏤碁子（こうげばちるのきし）、象牙を紺と紅に染め、表面に花食い鳥が彫り込まれています、

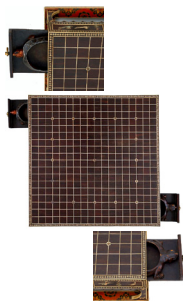


2016 年

3 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

木画紫檀碁局 2



2014 年
正倉院宝物シリーズ



2016 年

4 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

製作 小川 義博

麟鹿草木夾纈屏風 (りんろくくさききょうけちのびょうぶ)

寸法：長 149.5 幅 56.5
 国家珍宝帳記載品。夾
 み染めの染織屏風。今
 日、麟鹿草木屏風は失
 われ、鹿草木の図様の
 1 扇をそれにあててい
 る。



1960 年
 奈良遷都 1250 年



2016 年

5 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

金銀鈿莊唐大刀

(きんぎんでんかざりのからたち)

寸法：全長 99.9 把長（鐔含）18.5

鞘長 81.5 身長 78.2 茎長 13.6

材質・技法：把は鮫皮巻 白皮懸 鞘は木製皮貼黒漆塗
末金鏤 透し金具は銀台鍍金
莊玉は色ガラスと水晶 帯執は紫皮 唐大刀は唐風の大刀を意味し、外装に豪華な装飾が施され、儀式用とされる。国家珍宝帳に大刀 100口が記載されるが、現存するのは本品のほか杖刀 2口のみである。



2014 年
正倉院宝物シリーズ



2016 年

6 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

墨絵弾弓

(すみえのだんきゅう)

弾弓（だんきゅう）とは、丸玉を弾く弓のことで、弓身に墨絵で散楽図が描かれています。切手意匠には墨絵の部分と墨絵で描かれた弄丸芸（ろうがんげい）の場面が採用されています。※散楽 中国古代雅楽に対する民間の俗楽を意味する芸能で、歌舞雑奏に次第に幻術・奇術を加え、曲芸なども加わり百戯などとも呼ばれるにぎやかな芸能として唐代に盛んになりました。



2014 年
正倉院宝物シリーズ



四角部分 切手意匠部分

2016 年

7 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

金銀平文琴

寸法：全長 114.5

額の幅 16.0 尾の幅 13.0

材質・技法：桐 漆塗 金銀平文 臨岳・
竜尾は紫檀

琴〈きん〉は中国で完成され、七絃を有する。金や銀の薄板を文様に切り、漆地に塗り込め、表面を研ぎ出して文様をあらわす平文という技法で飾られている。内部の墨書により唐の開元23年(735)に制作されたと考えられている。琴は中国で成立した七絃楽器で、金銀平文琴(きんぎんひょうもんきん)は唐代のもので、琴の主たる材は桐で、黒漆を塗り重ね、その上に文様の形に切った金銀の薄板を貼り、さらに漆を塗り文様部分を炭で研ぎ出す平文技法で装飾が施されています。



2014年

正倉院宝物シリーズ



2016年

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

瑠璃杯 (るりのつき)

寸法：口径 8.6 高 11.2 重 262.5

材質・技法：アルカリ石灰ガラス（紺色）

脚は銀台鍍金 毛彫 魚々子地 蓮弁様受座は
新補

紺色のカップ形ガラス杯、アルカリ石灰ガラス製で、紺色の発色はコバルトによる。表面には、同じ素材のガラスで輪が貼り巡らされている。外面には計二十二箇の円環を貼りめぐらせ、底には銀製鍍金（ときん）の台脚が取り付けられています。西アジア方面で作られたガラス器とされています。



2014年

正倉院宝物シリーズ



2016 年

9 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

製作 小川 義博

漆胡瓶 (しっこへい)

寸法：高41.3 胴径18.9

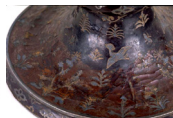
材質・技法：巻胎 黒漆塗 銀平脱 把手は金属 銀製兵庫鎖をつく

鳥頭に象った蓋を持つペルシア風の水差し。木材を細長い薄板にしたものを巻いて作り、表面に黒漆を塗る。草花や鳥獣に切り抜いた銀の薄板で文様を表わす。国家珍宝帳所載の品。



2014年
正倉院宝物シリーズ

鳥の頭に似たふたが付いた漆塗りの水差しで、「胡瓶」とはペルシア（現在のイラン）式の瓶を意味します。本体は細い板を巻き上げて作り、漆を塗った上に銀製の文様板を貼って装飾しています。文様は草原に動物が遊ぶさまを表しています。



2016年

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

平螺鈿背円鏡

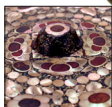
(へいらでんはいのえんきょう)

寸法：径27.2 縁厚0.8 重2473.6
材質・技法：青銅鋳造（銅70%弱・錫約25%・鉛約5%）螺鈿 琥珀（伏彩色）金属環 トルコ石 青金石

背面に螺鈿で花鳥文をあらわした鏡です。花心には赤い琥珀（こはく）を、また、螺鈿文様の間地は黒い樹脂様の物質に青いラピスラズリや白や水色のトルコ石の細片がちりばめられています。珀は東南アジア産、ラピスラズリはアフガニスタン産とされています。



2014年
正倉院宝物シリーズ



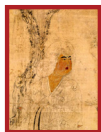
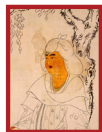
2016 年

11 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

鳥毛立女屏風

(とりげりつじょのびょうぶ)



寸法：長 135.9 幅 56.2
材質・技法：紙本 白色地彩色
ヤマドリ羽毛痕跡 仮表装

2015 年
正倉院宝物シリーズ

制作された当時は、着衣や樹木などにキジの一種であるヤマドリの羽毛が貼られていた。そのため、この名がある。現在はほとんど剥落して下図の墨線のみとなり、彩色された面貌だけが当初の様相をとどめている。

2016 年

12 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

製作 小川 義博